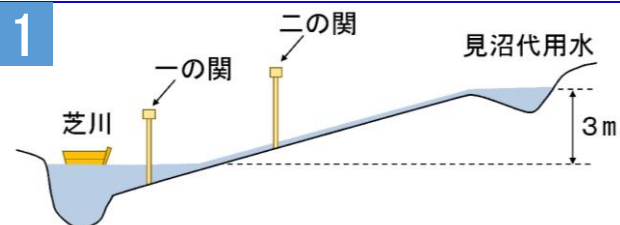


見沼通船堀 通船の模式図

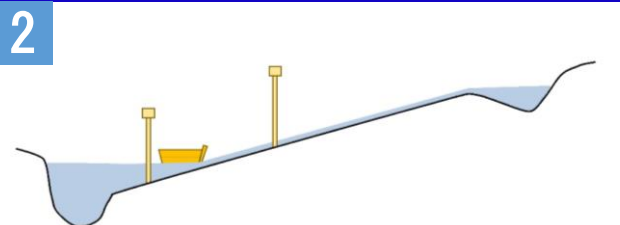
1



芝川 一の関 二の関 見沼代用水 3m

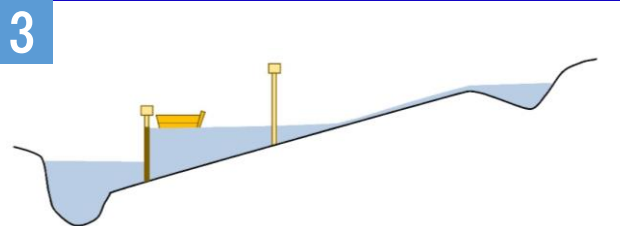
江戸から荷物を積んだ船が芝川を通過してやってきた。ここから見沼通船堀を通って見沼代用水に出るには、3mの水位差を克服しなければならない。

2



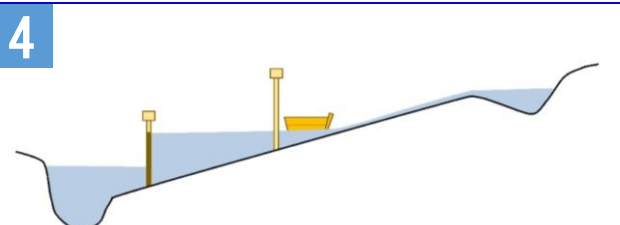
人力にて綱で引かれて一の関を通過する（見沼代用水から芝川の方へ流れ落ちる水は、閘門で狭められて勢いよく流れ出るため、通常20人くらいで綱を引っ張ったといわれる）。

3



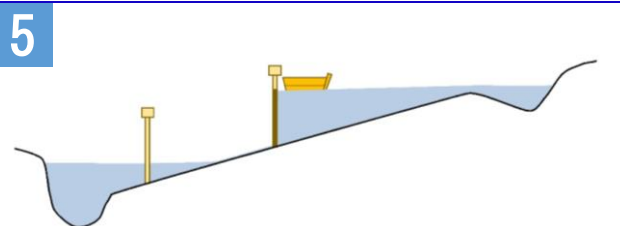
船が一の関を通過すると、一の関には長さ約33cm、幅約18cm、厚さ約6cmの「角落（かくおとし）」と呼ばれる板を1枚ずつ、計10枚ほど積み上げて、水位を高める。

4



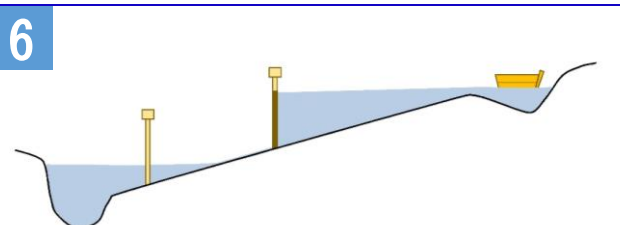
船が二の関を通過できるくらいの水位に上昇すると、一の関同様綱で引き上げられて二の関を通過する。

5





船が二の関を通過すると、一の関と同様に角落がはめられて見沼代用水と同じ高さまで水位が上がる。

6



船は見沼代用水に進み、見沼代用水縁辺の村々に荷物を届けられることができる。見沼代用水から芝川に下るときは、この逆の手順で行う

 …関は閉まっている
  …関は開いている